

日赤水戸支部 防災ボランティアリーダー・
消防団員・防災士 益子さや子さん（五十代）



益子さん

わせて共存してるんだって事に気付いたらちよつと怖い気もしますけどね。

ボランティアが必要とされた

令和元年台風の水害の時、私は大子町社会福祉協議会が立ち上げた災害ボランティアセンターで活動をしました。電話によるボランティア依頼の受付や申請書の整理・現地地図の作成などです。土地勘が無い町外の社協職員さんのフォローをさせていただきました。

大子町の災害対策本部から最新の浸水被害の情報が毎日入ってきていました。でも実際の被害件数から見てもボランティアセンターへのニーズ依頼件数は最初は少なかったと思います。町民への災害ボランティアセンターの認知度の低さも在りますが、人は頼らず自分たちで何とかするんだ”と頑張っていた人がとても多かった事を知った時は驚きと悲しい気持ちになりました。濡れた家財道具を早く外へ運び出したい思いで水が引いた直後から片付け作業をしていた人々にボランティアセンター開設の情報なんて分かって当然だったと反省の思いにも成りました。

災害ボランティアセンターの存在はテレビのニュースで耳にしていたと思いますが詳しく知る人は高齢化率の高い大子町に何人いたでしょうね・・・被災地のニュースを自分事として見ていたらもう少し変わっていたのではと思う時が今もあります。

壁をぶち破るほどの水の勢い

大子町での浸水被害の件数は約五〇〇件でした。大子町に限らず県内外でも多くの住宅に被害が出ましたが、上流と下流では浸水被害にも特徴があるらしいですよ。大子町のように上流地域だと兎に角水の勢いが凄いらしく、被災した人の話では表から流れ込んで来た水が裏の扉や壁を破壊して出て行ったと聞かされた時は言葉が出ませんでした。

そんな浸水被害の特徴はもう一つあり水嵩が一気に上がり一気に下がる事です。浸水家屋の床下に溜る泥の量が下流域域よりも比較的少ないとボランティアさんが教えてくれました。

ボランティアの方がたくさん来てくれた

町外の社協の職員さんが二〜三名ずつ交代で大子まで毎日通い災害ボランティアセンター運営の応援に入ってくれていました。

実際に被災したお宅へお手伝い作業の調査に出かけ現状を目の当たりにした事が気付きとなり自分たちからアクションを起こす切っ掛けに成りました。

自然豊かな大子の危険性

大子町は自然が多く町の面積の八割が山林です。茨城県一高い八溝山に鮎釣りができるほど綺麗な一級河川の久慈川が町の中心を北から南に流れています。山も川も大子町にとっては貴重な観光資源ですからそこを全面に出して町もPRをしてきました。

半面、山が多ければ土砂災害の危険性が高くなるし、町の中心地を川が流れれば水害で生活拠点にダメージを受ける事は想像がつかず。これって冷静に考えれば「大自然」と「災害」が隣り合

また私が所属する日本赤十字社茨城県支部の防災ボランティアリーダーの皆さんも連日、センター運営の手伝いと遠くは県南・県西からも賭けつけていただいたこと本当に心強く感じました。ボランティアセンターの資材置き場の管理をやってくれました。ここにある資材って全国から届いた物でそれをボランティアさんに貸し出して作業をして貰うんです。泥汚れを洗い、翌日の作業に少しでも早く出掛けられる様に置き場の整理をやってくれました。

勿論、町内外からもボランティア活動に参加してくれた人、貴重な休みをボランティア活動に充ててくれた人、ボランティアさんへ感謝の気持ちをと差し入れをくれた人、そして運動部の仲間と来てくれた高校もありました。活動の後半は高齢のボランティアさんから小学生や女性の団体も家財品の運びだしの後の清掃作業に活躍いただき大変助かった事を思い出します。

伝えていくこと、備えること

ボランティアセンターでは実際に被災した人がいろんな話をしていくんです。そんな体験談を聞きながら早く復旧させたいとの思いで毎日ボランティアセンターまで通っていたと思います。

やっぱり自然の災害・水害って起こってしまうと町中が本当に大変に成ります。今回の様に町役場が水没したため限られた職員数で現地調査や役場の片付け作業や窓口のお客様対応といったばいっばいで仕事をこなしていた様子を思い出しますよ。

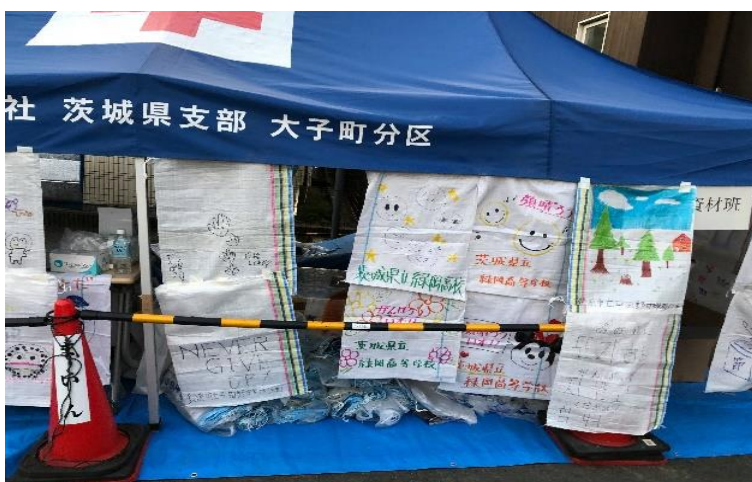
私は防災士として活動もしてきましたが水害後、何度か講演活動をする機会がありました。そんな時は先ず冒頭で大子町の紹介と水害の様子を伝える様にしています。自分たちが経験したことは、語り伝える事で次への備えに繋がって欲しいからです。

災害を自分事として捉えてほしい

遠くの被災地へボランティア活動の為にわざわざ出かけるよりも近場で活動の機会があれば活動に参加することをお勧めします。でも無理だけはしないで下さい。学生の皆さんには現地で見たり聞いた事はきつと何らかの形で影響があるはずだからです。「現地へ行ってなんぼ」では無いけどやっぱり若いからこそその話を聞きたり現地を見る経験は貴重ですよ。

今はネットの普及でその場所へ行かなくても、直接会わなくても情報を手に入れることが出来ますがリアルに災害を見たり聞いたりする事で

今起きてる災害を自分事として捉えてほしいです。明日は我が身という事は忘れないで下さい。



土嚢袋に書かれた応援メッセージ